

企業経営レポート 72
静岡県東部地域企業経営動向調査
2006年1～3月期実績
2006年4～6月期見通し

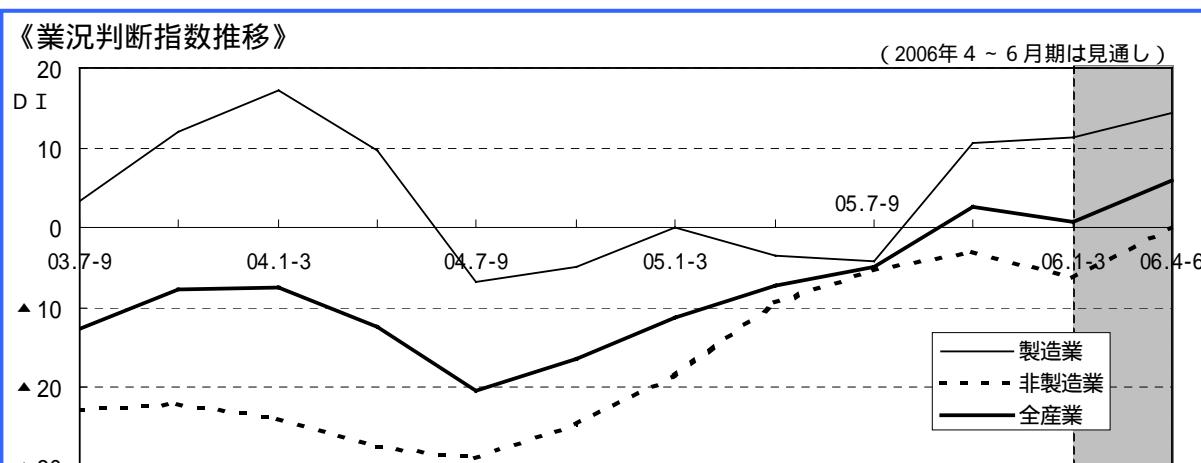
2006/4/28

財団法人 企業経営研究所
〒411-0036 三島市一番町15-26
TEL 055-981-3033 FAX 055-981-5888
URL : <http://www.srgi.or.jp>

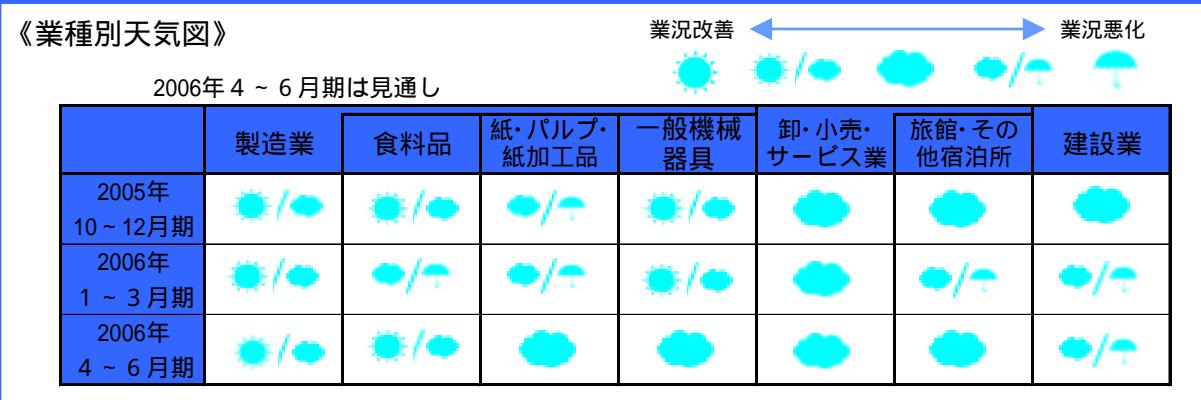
業況概要(自社) ~製造業DIは僅かに改善、非製造業はやや低下~

静岡県東部地域における2006年1～3月期の業況判断DIは、全産業で0.8（前期2.6）となり、前期比若干の低下となったが、全産業ベースでのDIは引き続きプラスを維持している。

業種別では、製造業が11.2（同10.5）と僅かながら上昇した。一方非製造業では、卸・小売・サービス業が0.0（同0.0）と前期比横ばいで推移したが、建設業で▲21.4（同▲9.1）と低下したため、非製造業全体でのDIも▲6.3（同▲2.9）と低下する結果となっている。



DI : ディフュージョンインデックス(Diffusion Index)の略。
「上昇、増加、好転」した企業割合から「下降、減少、悪化」した企業割合を差し引いたもので、業況判断を見る指標です。



《調査の概要》

- | | |
|--|--|
| 1. 調査目的
静岡県東部地域（富士川以東）の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握 | 3. 調査方法
当研究所の指定した項目につき、記名式で実績と見通しを記入するアンケート調査 |
| 2. 調査対象企業
静岡県東部地域に立地する企業 840社
回答数240（回答率28.6%）
業種別企業数は4ページ下段図表を参照 | 4. 調査対象期間
実績:2006年1～3月期
見通し:2006年4～6月期 |
| | 5. 調査時点
2006年3月 |

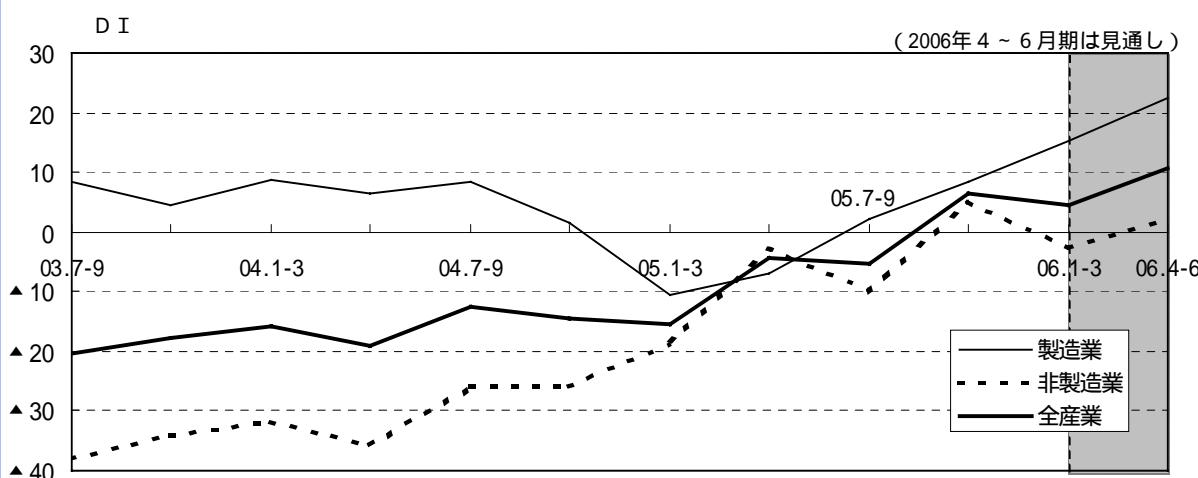
売上動向

製造業は引き続きプラス幅拡大も、非製造業は再びマイナス判断に

2006年1～3月期の全産業の売上動向DIは4.6(前期6.5)で、前期比若干低下となった。製造業は食料品やその他製造業でDIが改善したことから、全体でのDIは15.3(同8.4)と引き続きプラス幅が拡大した。一方、非製造業では、卸・小売・サービス業で1.0(同9.8)、建設業で▲11.9(同▲4.5)といずれもDIが低下したことから、全体でも▲2.8(同5.1)と再びマイナス判断に転じた。

2006年4～6月期(見通し)の予想DIは、全産業で10.5と今期比上昇を予測している。製造業では22.4とさらなる上昇を見込んでおり、非製造業でも2.2と反転上昇への期待がみられる。

《売上動向の推移》



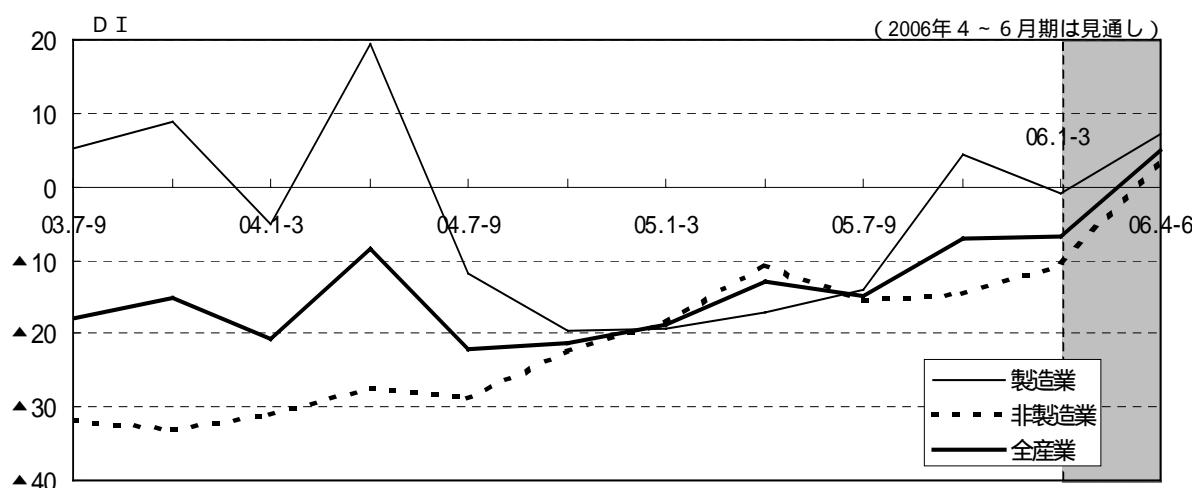
利益動向

製造業は低下し僅かにマイナス判断へ、非製造業は引き続き改善

2006年1～3月期の全産業の利益動向DIは▲6.7(前期▲7.0)で、前期比ほぼ横ばいで推移している。製造業はパルプ・紙・紙加工品、金属製品、一般機械器具でDIが低下したため、全体では▲1.0(同4.3)と僅かではあるがマイナス判断に転じた。一方、非製造業は旅館・その他宿泊所でDIが低下したが、それ以外の小売・サービス業や建設業でDIが改善されたため、全体でも▲10.6(同▲14.7)と引き続き改善された。

2006年4～6月期(見通し)のDIは全産業で5.0と、売上動向と同様今期比上昇を予測している。業種別でも、製造業で7.1、非製造業は3.5といずれも改善への期待が示されている。

《利益動向の推移》

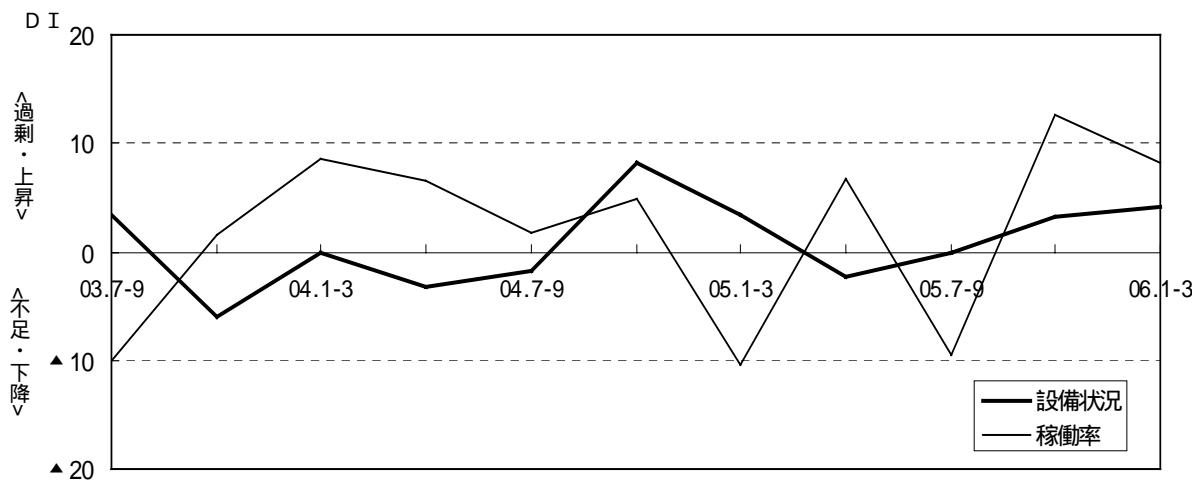


設備状況・稼働率 (製造業)

設備状況は引き続き若干「過剰」、稼働率は引き続き「上昇」

2006年1～3月期の設備状況D Iは4.1(前期3.2)で、前期と同様若干「過剰」の判断となっている。パルプ・紙・紙加工品で「過剰」感が強く、食料品でも「適正」から「過剰」に転じた。また金属製品では「不足」感が弱まっている。一方、稼働率D Iは8.2(同12.6)とややD Iは低下したが、引き続き「上昇」判断にある。その他製造業でD Iが上昇したが、パルプ・紙・紙加工品と一般機械器具はD Iが大幅に低下し、「下降」判断に転じている。

《設備状況・稼働率の推移》



在庫状況 (製造業)

D Iが反転上昇、在庫過剰感が再び強まる

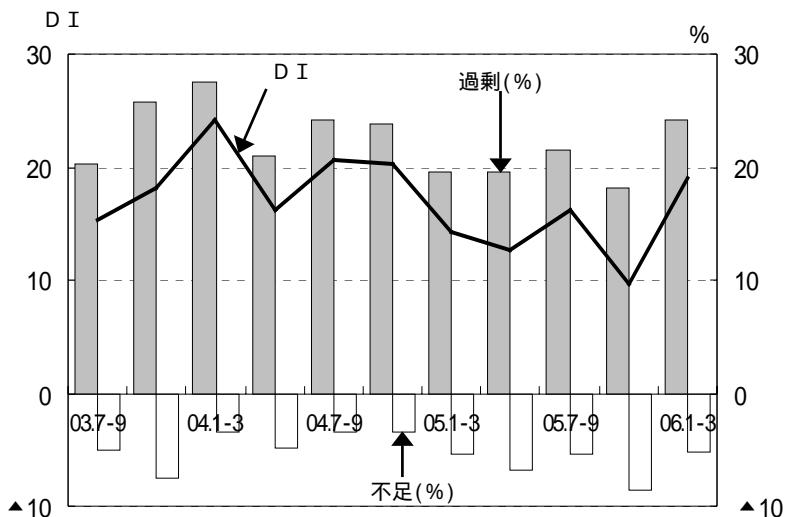
2006年1～3月期の在庫状況(製造業)は、「適正」「不足」とする企業の比率が若干低下した反面、「過剰」とする企業の比率がやや上昇した。この結果、在庫状況D Iは18.9(前期9.6)と2期ぶりに上昇に転じ、いつたん弱まった在庫過剰感が再び強まっている。業種別でも、パルプ・紙・紙加工品や金属製品でD Iが大幅に上昇し「適正」から大幅な「過剰」に転じるなど、その他製造業以外でD Iがいずれも上昇傾向に転じており、在庫過剰感が強まっていることが示されている。

《在庫状況》

	(前期) 2005年 10～12月期	(今期) 2006年 1～3月期
過 削	18.1 %	24.2 %
適 正	73.4 %	70.5 %
不 足	8.5 %	5.3 %
D I	9.6	18.9

(%は回答企業の比率)

《在庫状況の推移》



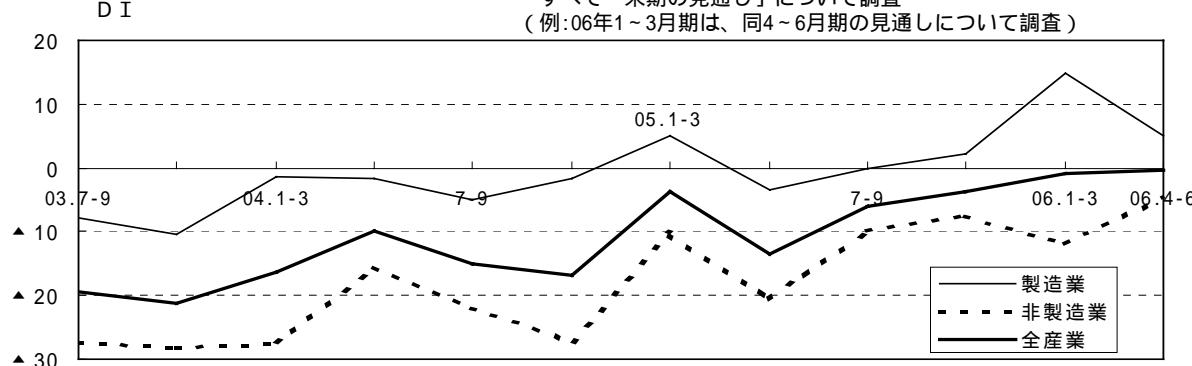
設備資金借入動向(来期)

製造業は借入増加がやや弱まる、非製造業は借入抑制がやや緩和

2006年4～6月期(来期)の全産業の設備資金借入動向(見通し)D Iは▲0.4(前期▲0.9)と、引き続きほぼゼロの水準で推移し、引き続き借入金増加と抑制の動きは拮抗している。うち製造業は5.2(同14.7)とD Iが低下し、設備資金借入れへの積極的姿勢がやや弱まっている。一方、非製造業では▲4.4(同▲12.0)とD Iが上昇しており、引き続き借入抑制の基調にあるが、その傾向はやや緩和される方向にある。

《設備資金借入動向推移(見通し)》

すべて「来期の見通し」について調査
(例:06年1～3月期は、同4～6月期の見通しについて調査)



経営上の問題点

「過当競争・製品安」が増加、「受注・売上の停滞・減少」を上回る

上位8項目の内容はすべて前期と同様であるが、「過当競争・製品安」が増加し「受注・売上の停滞・減少」を上回って最も多くなった。業種別では、製造業では引き続き「原材料・仕入商品の値上がり」が最も多く、「人材の育成」「過当競争・製品安」と続く。一方、卸・小売・サービス業と建設業ではともに「受注・売上の停滞・減少」と「過当競争・製品安」の回答が最も多く、次いで「人材の育成」が多くなっている。

《経営上の問題点(上位8項目)》

(社、%)

	05年7～9月期		05年10～12月期		06年1～3月期		順位変動
	企業	割合	企業	割合	企業	割合	
1.過当競争・製品安	99	40.6	99	42.7	108	45.0	
2.受注・売上の停滞・減少	129	52.9	110	47.4	107	44.6	
3.人材の育成	87	35.7	93	40.1	93	38.8	
4.原材料・仕入商品の値上がり	87	35.7	83	35.8	80	33.3	
5.生産・販売能力の不足	59	24.2	59	25.4	53	22.1	
6.従業員の高齢化	53	21.7	47	20.3	48	20.0	
7.人件費の増加	38	15.6	39	16.8	41	17.1	
8.その他経費の増加	37	15.2	37	15.9	39	16.3	

《業種別：回答企業数およびD I》

設備資金は来期の見通し、それ以外は今期実績

業種	企業数	売上動向	利益動向	設備状況	稼働率	在庫状況	設備資金
食料品	13	7.7	▲30.8	7.7	▲38.5	7.7	0.0
パルプ・紙・紙加工品	11	9.1	▲36.4	27.3	▲18.2	54.5	27.3
金属製品	17	35.3	17.6	▲5.9	23.5	31.3	11.8
一般機械器具	13	▲7.7	0.0	▲7.7	▲7.7	25.0	0.0
その他製造業	44	18.2	9.1	4.5	27.3	7.0	0.0
製造業計	98	15.3	▲1.0	4.1	8.2	18.9	5.2
旅館・その他宿泊所	14	0.0	14.3	-	-	-	14.3
その他小売・サービス業等	86	1.2	▲9.3	-	-	-	1.2
卸・小売・サービス業計	100	1.0	▲6.0	-	-	-	3.2
建設業計	42	▲11.9	▲21.4	-	-	-	▲22.0
非製造業計	142	▲2.8	▲10.6	-	-	-	▲4.4